

# 林 重雄<sup>1</sup>・今井拓哉<sup>2</sup>：愛知県田原市にマダラシロハラミズナギドリ *Pterodroma inexpectata* の漂着

Shigeo HAYASHI<sup>1</sup> and Takuya IMAI<sup>2</sup> : Report on a Mottled Petrel, *Pterodroma inexpectata*, stranded on the beach of Tahara City, Aichi Prefecture, Japan

マダラシロハラミズナギドリ *Pterodroma inexpectata* は、ニュージーランド南端のシュアート周辺の島嶼とスネアーズ島で繁殖し、非繁殖期となる4月頃には太平洋を北上し、アリューシャン列島、アラスカ湾、ベーリング海まで渡る。夏の間は同地域の亜寒帯海流域に広く分布し、夏の終わりにはカリフォルニア沖から南下し10月から11月には繁殖コロニーに戻る。(Nakamura & Tanaka 1977; Harrison 1983; Brazil 2009)。本種は翼下面にM字形の黒帯を有すること、腹部が灰褐色であること、下尾筒が白いことなどの特徴が、近似のシロハラミズナギドリ類との識別点である(Harrison 1983; Brazil 2009)。日本近海での出現は稀で(Brazil 2009)、日本国内では1986年6月17日に広島県、2011年6月8日に三重県、2012年6月5日に群馬県で本種の記録がある(福本 1989; 宮越ほか 2014; 深井ほか 2021)。一方、IUCN レッドリストにおいては準絶滅危惧 (NT) とされ、Nakamura &



図1 愛知県田原市六連町百々海岸の位置

Tanaka (1977) をはじめとする国内外の分布に関する研究や、Sagar et al. (2015) に代表される保護と生息地の移行の対象となっている。このため、海上や繁殖地における観測の他、マダラシロハラミズナギドリの漂着個体を記録することは、その季節ごとによる渡りの経路や渡りによる死亡リスクを評価するために重要である。

渥美半島に位置する田原市の太平洋側には砂浜海岸が連続し、豊橋市との境界から伊良湖岬までは、東西約30kmになる(田原市 2008)。太平洋に面する海岸一帯は、初夏から秋にかけ漂着物が打ち上げられるシーズンとなり(林重雄ブログ)、定期的な漂着物調査を行っている。初夏の頃、太平洋沿岸では渡りの途中で飢えて弱り、死に至り大量漂着するハシボソミズナギドリはよく知られている(中西 1999)。今回、本州中部の愛知県田原市の海岸で、日本では稀少なマダラシロハラミズナギドリの漂着を確認したので、ここに報告する。

## 漂着記録

2021年6月5日、愛知県田原市六連町百々海岸(図1)で漂着物の調査中にマダラシロハラミズナギドリの死体の漂着を確認した。

当日午前9時の天候は晴れ、最寄りの伊良湖岬のデータによれば気温21.6℃、北北西の風、風速3.1m/sであった(気象庁ホームページ)。マダラシロハラミズナギドリは当日の高潮線上に、他の点在する漂着物と一緒に漂着していた(図2)。

百々海岸で回収したマダラシロハラミズナギドリの計測は、デジタルノギスと定規を用いた。なお測定値は、露出嘴峰長25.8mm、翼長253mm、尾長106mm、跗蹠長34.9mm、翼開長80cmであった。嘴は黒色で管状の鼻孔があり、上嘴先端は鉤状に丸くカーブしていた。翼上面は濃灰色で、初列風切から雨覆、腰にかけては黒色味が強くM字型の帯状であった。翼下面は白色で、翼角から脇にかけてコントラストの強い黒色帯が見られ、胸部から腹部にかけては灰褐色を帯び、下尾筒は白色であった(図3)。脚はごく淡い肉色から白色で、趾の先端部と水かきは黒色であった。内部のCTスキャン撮影の結果から恥骨間距離は23.6mmと測定できた。鳥類においては左右の恥骨間距離が産卵のため雌で雄より大きい



図2 田原市に漂着したマダラシロハラミズナギドリ *Pterodroma inexpectata* の漂着状況



図3 田原市に漂着したマダラシロハラミズナギドリ *Pterodroma inexpectata* の下面

ことが知られており (Stromberg 1977; 茂田・中森 2004), 山階鳥類研究所所蔵の同属種シロハラミズナギドリ雄の3D画像 (山階鳥類研究所ホームページ) と比較し, 開いた恥骨尖の形態からも雌と判断した (図4). 漂着死体は外部的な欠損は認められず, 内部のCTスキャン撮影の結果からも骨折は認められなかった. マダラシロハラミズナギドリの表面は海面に浮遊していた汚れが付着し, 波浪の影響で羽毛は乱れていた. また眼球は陥没していたが内蔵の腐敗も無く, 海上で死んだ後に比較的短期間で漂着したものと推測できた.

マダラシロハラミズナギドリの漂着していた浜では, 同じ高潮線上にハシボソミズナギドリ2個体, コウイカの甲32個体, カツオノエボシ1個体, アマモ, コアマモ, ヒジキの漂着を確認した.

### 考察

これまでに本州におけるマダラシロハラミズナギドリの回収記録は3例と限られている. 今回の漂着も含め, 記録はいずれも6月初旬から中旬にかけての, 越夏する地域への移動途中の時期後半となっている. 三重県の漂着例では気圧の谷の通過による荒天の影響が指摘されている (宮越ほか 2014). 今回の漂着でも6月2日に発生し, 5日午後に熱帯低気圧へと変わった台風3号が南西諸島近海にあり, 台風の接近に伴う前線や気圧の谷の通過による荒天と, 6月3日から4日にかけての6~9 m/sの東南東~南からの強風と降雨 (気象庁ホームページ) が迷行と漂着に影響していると考えられる.

今回標本のCT撮影を試みたが, 標本を傷つけること無く骨格などの内部構造を観察でき, 3Dデータとして保存活用できることから, 今後はより普及するものと思われる.

現在マダラシロハラミズナギドリの標本は, 山階鳥類研究所に保管されている.

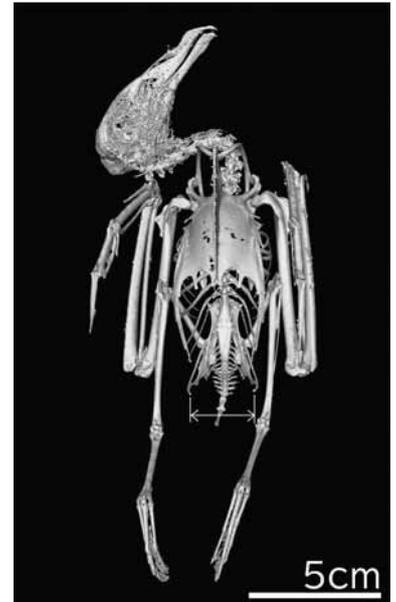


図4 田原市に漂着したマダラシロハラミズナギドリ *Pterodroma inexpectata* のCT画像からレンダリングした骨格3Dモデル. 矢印は恥骨間距離

### 引用文献

- Brazil, M. 2009. Birds of East Asia. 528pp. Christopher Helm, London.
- Harrison, P. 1985. Seabirds an Identification Guide. 448pp., Christopher Helm, London.
- 林重雄ブログ. Beachcomber's Logbook (<http://beachcomb.exblog.jp/>) (2021年6月6日閲覧)
- 深井宣男・清水伸彦・姉崎智子. 2021. 群馬県で記録されたマダラシロハラミズナギドリ日本鳥学会誌70(1): 71-74.
- 福本幸夫. 1989. 日本におけるマダラシロハラミズナギドリ *Pterodroma inexpectata* の新記録. 日本鳥学会誌38: 101-102. 気象庁ホームページ. (<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>) (2021年6月6日閲覧)
- 宮越和美・箕輪義隆・和田岳. 2014. 三重県津市町屋浜海岸で得られたマダラシロハラミズナギドリ *Pterodroma inexpectata*. 日本鳥学会誌63(1): 59-62.
- Nakamura, K. & Tanaka, Y. 1977. Distribution and migration of two species of the genus *Pterodroma* in the North Pacific. Misc. Rep. Yamashina Inst. Ornith. 9: 112-120.
- 中西弘樹. 1999. 漂着物学入門. 211pp., 平凡社, 東京.
- Sagar, R. L., Leseberg, A., Hunt, K., Nakagawa, K., Dunphy, B. & Rayner, M. J. 2015. Optimising translocation efforts of Mottled Petrels (*Pterodroma inexpectata*): growth, provisioning, meal size and the efficacy of an artificial diet for chicks. Emu - Aust. Ornith. 115 (2):137-145.
- 茂田良光・中森純也. 2004. 恥骨による性の識別の試み. 2004年度第19回日本鳥類標識協会大会講演要旨: 12.
- Stromberg, L. 1977. Sexing all fowls, baby chicks, game birds, cagebirds. 89pp. Stromberg Publishing Company, Minnesota.
- 田原市. 2008. たはらの海辺の博物誌. 95pp., 田原市, 愛知.
- 山階鳥類研究所標本データベース. (<https://decochan.net/index.php?p=3&o=ssp&id=63904>) (2021年8日閲覧)

(Received June 28, 2021; accepted Aug. 20, 2021)

<sup>1</sup> 〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町3-155

<sup>1</sup> 13-155 Toriimatsu-cho, Kasugai City, Aichi 486-0844 Japan

<sup>2</sup> 〒910-1195 福井県永平寺町松岡兼定島4-1-1 福井県立大学恐竜学研究所

<sup>2</sup> Institute of Dinosaur Research, Fukui Prefectural University, 4-1-1, Matsuoka-kenjojima, Eiheiji, Fukui, 910-1195 Japan